

第5回 住民説明会 質疑応答の要旨

工事について

(質問・意見) 広報用リーフレットの計画イメージのとおり、建物前の駐車場も全て立派な石畳となるのか。また、建物基礎杭の施工時の騒音はどうか。

(回答) 建物前の歩道は既設の観察舎前と同様にインターロッキング舗装、駐車場はアスファルト舗装の予定。また、基礎杭の施工については昔のような打設音ではなく一般的な機械運転音程度の発生はある。震災復興の影響から建材の納入が遅れる可能性もあり、工程の遅れや一部騒音も懸念されるが了承いただきたい。(北海道)

(質問・意見) 濁水処理設備を設けて沈殿させ、上澄みのみを放流するという説明だったが、沈殿した汚泥の処理はどうか。

(回答) 廃棄物として適正に処理する。(北海道)

(質問・意見) 凝固剤については、中途半端に使用すると効果が不十分なので、実施にあたっては業者をしっかりと指導して欲しい。それから、敷地内の道路排水(水路)の水と掘削に伴う汚濁水は、一緒に扱うと、濁水処理設備に入れる水量が増えるだけなので、分けて処理する必要がある。

(回答) ご指摘を踏まえて適切に処理したい。(北海道)

(質問・意見) 施設への温湿度計や風速計の表示はあるのか。

(回答) 予算縮減に伴い設備の再検討を進めており、全てに対応することは難しいが、ホームページ上での情報提供なども併せて検討していきたい。(北海道)

(質問・意見) 既設水路の付替は、水路幅を狭くし、コンクリート製とするのか。既設水路は素堀であり、川底に描水植物が生育出来ることにより水質浄化や土砂流入抑制の効果がある。できるだけ水路の幅を広くとり、植物がたくさんはえるようにすることが必要。

(回答) 本水路は道路排水を目的としており、計算上も同じ機能となるよう設計している。(北海道)

(回答) コンクリート側溝は駐車場敷地のみであり、その先は現在と同様の素堀側溝で計画している。湿地側に影響のない範囲で、現場あわせとなるができるだけ水路の幅を広く取れるように工夫したい。(環境省)

管理運営について

(質問・意見) 整備後にこの建物でどんな活動を行うのか。そのための地域での協力を具体化できるような組織づくりはどのように進めるのか。

(回答) ラムサール湿地登録時に湧沸湖関係の協議会が出来ているが、地域意見の範囲としては不十分と感じている。今回の組織づくりは今後検討していきたい。(網走市)

(質問・意見) 工事スケジュールにある鳥類調査や植生調査の結果は公表するのか。

(回答) 公表出来ない希少猛禽類等の営巣地情報は記載されていないので、閲覧はできる。むしろ、この施設の完成後は、施設に備え付け、活動の基礎資料とするほか、ホームページでも公表していきたい。(環境省)

(質問・意見) 組織づくりで対象とする地域はどこまで入るのか。女満別にも協力したい方はいる。

(回答) 施設展示はワイズユース(自然資源の賢明な利用)をコンセプトとしており、涛沸湖に接して暮らす方々が対象となるが、事業メニュー関係ではオホーツク管内等からの幅広い利用を想定している。(環境省)

(回答) 運営協議会の構成員としては、基本的には涛沸湖のある網走市と小清水町の方々が対象と考える。(網走市)

(質問・意見) 事業メニューにある地域との連携として、隣接する野鳥観察舎(網走市整備)も関係してくるが、本施設の整備と併せた建物のリニューアル等の動きはないか。

(回答) 現在のところ計画は無いが、今後設置される運営協議会の中で必要な連携方法を検討していきたい。(網走市)

その他

(質問) 第4回の説明会で意見をいただいた施設名称について、涛沸湖を漢字で表記するのであれば、「^{とうふつこ}涛沸湖水鳥・湿地センター」ではなく「^{とうふつこ}涛沸湖水鳥・湿地館」が良いのではないかとのご提案がその後寄せられた。検討に値すると考えているが、再度意見をお聞きしたい。(環境省)

(回答) 展示を見るだけでなく、地域の中心となって活動を行う施設であるため「センター」が良いと思う。(会場からその意見を支持する声有り)

(意見) 全く持って納得するご意見である。「^{とうふつこ}涛沸湖水鳥・湿地センター」(涛沸湖はふりがなつき)で施設名は確定したい。(環境省)

(質問・意見) 施設が完成し、今後涛沸湖周辺のオホーツク海岸の問題にも環境省が関わっていくと思われるが、遠方の釧路からどこまで対応出来るのか。

(回答) 担当は川湯自然保護官事務所が引き続き担当することになるが、マンパワーは不足している。本施設への環境省職員の常駐は今後も難しいが、オホーツク沿岸の問題にも取り組んでいけるように本省に対して、ご要望があった旨を伝えていきたい。(環境省)

(質問・意見) 昔は湖周辺は風が強く木が育たなかったが、最近は気候変動の影響か育ち始めている。環境省でもいろいろ調査に取り組んでほしいが、施設ではこのような大きな環境変化についても考え、勉強や活動に活かせるようにしてもらいたい。

(回答) 環境省でも何かしらの調査は考えたいと思うが、既に、多くの研究者や専門家が調査研究

をされていると思うので、本施設を研究者の方に拠点として使用していただき、これらの専門家との連携の仕組みづくりにより、情報が一元的に集まれば、さらに新たな取組みが可能になるなどしていくのではないかと考えています。そうすることで、今後、この施設が生きてくると考える。(環境省)

(確認) 施工前の説明会は今回が最後である。今月下旬より、アヤメの移植、水路の付け替えといった風に、順次着手し、来年春の完成を目指す。展示については適宜、地域の方と御相談していきたい。より良い施設となるよう努めていくので応援方よろしく願います。